

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第16号

日本民族総福音化の

可能性を探る(1)

「隠された十字架の国・日本」の

ヴェールを剥がせ

今年の十月十二日から十四日迄、私の牧する高砂教会を会場にして、大変面白いフォーラムが開催された。「聖書と日本フォーラム」(会長小石豊師)第十五回「ツ物祭り」という研究集会である。「ツ物祭り」というのは毎年十月十二日から十四日迄の期間高砂市にある曾根神社に昔から伝わっている不思議な祭りのことである。「ツ物」(この世に二つと無い大切なものという意味)と呼ばれる幼児が、中近東風の服装をした若物達に囲まれながら肩車されて宮入りし、宮の中で大人達と杯をかわす。そ

れに先だつて、三本の十字架の竹竿が境内に運び込まれて立てられ、二本が割かれ、一本が残る。これだけ描写しただけでも、多くのクリスチャン達は「これはキリスト教の祭りではないのか」と直感するであろう。私も数年前、初めてビデオでこの祭りを見た時、「あっ、これは」と思った。由来私なりに研究した結果の結論は、完全にキリストの降誕と十字架を再現した祭り以外の何物でもなく、祭りの中で叫ばれている囃詞言葉も古代ヘブル語(アラム語)の転訛したものと考えると、宮司達に聞いても「意

味は分かりません」としか返ってこないものでも、十分に聖書的な意味を持つに至る。例えば、中近東風の装いをした若者達が(主イエスの誕生に駆けつけた羊飼いとされる)「ツ物」を運びながら、「ヨイ、ヨイ、ヨイ」と囃す。これを「ヨームヨーベル」(ヨベルの日、解放の日)の転訛とみなすと俄然クリスマスの意味を帯びてくる。かくて、私は「ツ物神事とクリスマス」と題する講演を通して、この祭りは四世紀頃播州の地に漂着して日本全国にその

副総裁・事務局長
高砂教会牧師

手束 正昭

Masaaki Tetsuka

影響力を行使させた秦氏によって祝われていたクリスマスであり、このことは今やメシアニック・ジューの人々によって、実際のナザレのイエスの誕生日は十二月二十五日ではなく、九月から十月に行われる「仮庵の祭り」であることが確認されていることの故に、いよいよその信憑性は高い旨の話をした(私の講演を直にお聞きになりたい方は、「聖書と日本フォーラム」の方に申込み下さい)。

そして、この種の聖書と関連があるのではないかと思われる話に、単に曾根神社のみでなく、全国の神社にまつわつて(時には寺院にも)伝えられてきている。その中でも典型的なのは諏訪神社の「ミサクチ」祭り(一般には「御頭祭」と呼ばれている)である。詳細は省くが、この祭りでは創世記二十二章にある「アブラハムのイサク奉獻の物語」がほぼそのままの祭りの儀式として行われている。ちなみに、「ミサクチ」とは私の乏しいヘブル語の知識によつて分析してみると、本来「ミン・イーサク・チン」(「イサクの話」に由来する)の意であり、これが

約まった形と考えられる。

このように見てくると、日本の古来の伝統文化の中には、広く聖書の信仰が隠約的に潜んでいることが分かる。正に最近宣教師のケン・ジョセフ師が徳間書店から出された書物のタイトルの如く、我々は「隠された聖書の国・日本」、あるいは「隠された十字架の国・日本」ということになってくる。すると、これ迄の日本宣教の視点は根本的に見直されなくてはならない。と言うのは、長い間、日本という国はキリスト教を迫害し拒否してきた反キリスト的異教の国家であり、それ故に宣教の非常困難な国と見なされてきたのではなかったか。この前提に立つていたので、日本宣教が進まないのは止むを得ない当然のこととして語られ続けてきたのではなかったか。けれども、それはもしかしたらとんでもない見当違いであり、福音は既に日本人の血と土壌の中に深く埋もれたまま眠っており、いつの日にか陽の目を見ることを待っているとは考えられないだろうか。

日本は先進国の中でも群を抜いてモラルの高い国と言われてきた(尤も、最近では随分と低下してきてはいるが)。私の教会の若者達は毎年フィリピン宣教に赴いている。二年前、そこで韓国の老牧師に世話になった時、その老牧師は若者達に語ったという。「日本人は不思議な民族だ。聖書を知らない筈なのに、自分達韓国人よりも遙かに聖書に則った生活をしている」と。そのような日本人評は別に特別なものではない。よく聞く話である。確かに日本人の中には「インナー・トーラー」(小石豊師)とも言うべきものがある。一体、それはどこから来たのか。古代日本において、「東回りのキリスト教」がやって来て、人々の心を支配していたにも拘わらず、歴史的経緯の中で埋もれてしまったからである。しかしそれは確実に日本人の深層の部分の中に生き続けてきたと考えられる他はない。すると日本は仏教ないし神道の国と見えながら、実は「非キリスト教的キリスト教国」であり、ケン・ジョセフ師の言葉を使えば、「隠された十字架の国・日本」

ということになる。

すると、日本宣教とは「西回りのキリスト教」即ち「欧米のキリスト教」を何とかして日本人の心の中に必死になつて植え付けようとする企てであるよりも、日本の歴史・文化・伝統の中に潜んでいる「東回りのキリスト教」を発見し、提示することの中にあるのではなからうか。つまり、「隠された十字架の国・日本」のウェールを剥がすことによつて、主イエスがかのサマリヤの女にスカルの井戸辺で言われたように、「わたしたちは知つて礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています」(新改訳・ヨハネ四・二三)と迫るべきではなからうか。その時、多くの日本人達は自分達の先祖の宗教がユダヤ教ないしキリスト教であったことに気が付き、聖書の信仰に復帰する事になるのではなからうか。こう考えてくると、「日本民族総福音化」という余りにも壮大で途方もないように思われるヴィジョンも、十分に可能で、しかもワクワクする企てとなつてくるのである。

活動 ブロック レポート

中国ブロック



崔世雄師を迎えて(1)

中国ブロック長 赤磐教会牧師 額田 浩

一〇月二十九日より十一月七日まで、韓国仁川ヶサン中央メソジスト教会の元老牧師である、崔世雄牧師が来日されて中国地方の四県(岡山・広島・島根・鳥取)六つの教会を巡回されました。受け入れ教会では、主日礼拝の御用のほかは、伝道力アップセミナーの御用をしていただきました。崔牧師の伝道力アップセミナーには定評があり、以前日本で行われた同セミナーでも参加者にすばらしい影響を与えられたと聞いています。

私の教会する教会でも、伝道力アップセミナーをしていただきました。イヤヤ書よりわたし達が聖なる種子であることを強調され、わたし達から多くの実が結ばれることを教えられました。農村にある教会としては、ちょうど収穫の時期と重なり、参加者一人ひとりの心に届きました。

また、私は今回日本側の受け入れ教会の窓口として、韓国側と交渉をさせていただきました。何度も参加人数やホテルの部屋数の変更がありました。その度に他の受け入れ教会に連絡をしました。最初の数回は、度々の変更を伝えることが受け入れ教会の先生方に申し訳ない思いもあって気が重かったのですが、繰り返しお電話をするうちに、普段交わりの少ない教会の先生方や、まだお顔も存じ上げない先生方との間に主にある一致を感じるようになりました。セミナーの内容そのものもすばらしい恵みでしたが、受け入れ教会の先生方との関係作りも大変大きな収穫でした。これを機会に、これからも主の御用のために共に力を合わせて働かせていただきたいと思いました。



崔世雄師を迎えて(2)

米子福音ルーテル教会牧師 松村 秀樹

米子福音ルーテル教会には十一月五日(水)〜六日(木)に、崔世雄師に来ていただき、二回のセミナーをしていただきました。初日は五日(水)の一九時三〇分〜二一時のセミナーでした。夜ということもあって、中学生から大人まで、約二〇人の参加でした。セミナーでは、まず、伝道のトビラが開かれるよう、祈り続けよう、と熱く語ってくださいました。そして、次に、神様は伝道の種を造ってくださるということが語られました。虚しい希望のないパベルの塔を積み上げているような危機的な日本で、ノアの箱舟を作り上げようではないかと語られました。日本の将来に何が必要かを見ずえて、私たち自身が伝道の種になりたいと願わされました。

二日目の六日は一〇時三〇分〜一二時にセミナーが開かれました。大人を中心に約一五人の参加でした。終末意識を持って伝道することが語られました。今、伝えないと、福音を聞くことなく終末を迎えるかもしれない危機感を持って、イエス様を伝えるて行きたいと強く思われました。

崔先生は、私たちの教会の若い人たちを見てこの教会には希望がある、と励ましてくださいました。神様が教会を愛し、神様の御わざがあふれてい

ること、特別な使命があることが語られました。だから、信仰と希望と勇氣を持って、伝道して行くのではないかと、伝道の意識を高めてくださいました。崔先生のセミナーを通して、私たちの教会は、伝道に対して、危機感と価値観の二つのモチベーションが高められ、伝道への思いを熱くされました。また、伝道のトビラが開かれるというメッセージは、私たちの教会に大きなインパクトを与え、二〇〇九年の私たちの教会の標語を「開く」にしようとしていきます。また、水曜日のセミナー後に、牧師、伝道師になりましたと願う青年たちのために、特別に崔先生は手を置いて祈ってくださいました。そのひと時はとても厳粛で辛いな時間でした。

キム先生の通訳も熱く、分かりやすく、キム先生の信仰も私たちに大きな影響を与えてくれました。また、ともにも来られたカン長老の忠実な姿もとても印象的でした。木曜日の午後には崔先生がたどるにも大山へドライブに出かけました。とても天気もよく、紅葉が真る盛りで、とても美しい自然を体験しました。なんだから、神様の恵みの約束を受け取ったような気がしました。崔先生を遣わしてくださいました神様に心から感謝します。

オープンセミナー開催

信徒によるリバイバル運動



講師 ■塚本 謙一郎氏 (FGB会長) ■梅津 善一氏 (VIP大阪会長)

日時 ■2009年1月6日(火) 10:00~12:00

会費 ■1,000円

会場 ■大阪クリスチャンセンター201号室

〒540-0004 大阪府大阪市中央区玉造2-26-47

TEL.06-6762-7701

<http://www.osakachristiancenter.or.jp/>

※オープンセミナーは
どなたでも参加できます。

※お問い合わせは事務局まで。

Tel.079-442-4854 Fax.079-442-4878

E-mail info@takasago-church.com



- JR環状線玉造り下車徒歩10分
- 地下鉄長堀鶴見緑地線玉造下車①番出口を右に出て徒歩約5分
- 空堀町交差点をレンガの歩道沿い北へ約30m